

『かめおかプラスチックごみゼロ宣言』について

1 市長宣言文(案)

深刻化する海洋プラスチック汚染は、魚や海鳥などの海の生態系にまで大きな影響を与え、地球規模の問題となっているだけでなく、ここ亀岡でも保津川のごみ問題は、地域経済への現実の脅威となっています。

この問題は、私たち一人ひとりの身近な問題として捉えていく必要があります。そのためにも、私たちにできる身近な取組みを国内外の他都市とも連携し、湧き上がるような大きな流れを巻き起こしていかなければ解決できるものではありません。

今、世界では、使い捨てプラスチックの削減に向けた動きが加速しています。亀岡市は、平成24年に内陸部の自治体で初めてとなる海ごみサミットを開催し「母なる川保津川」から海ごみをなくす取組みを発信してきました。こうした取組みをさらに深化させ、SDGsの取組みとしてみなさんとともに2030年までに使い捨てプラスチックゼロのまちを目指します。そして、自然環境の保全と地域経済の活性化に一体的に取り組む『世界に誇れる環境先進都市』を実現します。

2018年12月 日 亀岡市長 桂川 孝裕

2 目指す内容

- (1)市内の全ての店舗でのレジ袋有料化を皮切りにレジ袋禁止に踏み切り、マイバック持参率100%や、やむを得ない場合についても再生可能な素材の買い物袋の使用率100%を実現する取組みを進めます。
- (2)「保津川から下流へ、そして海にプラスチックごみを流さない。」世界規模の海洋汚染(マイクロプラスチック)問題に立ち上がる意識のつながりを呼び掛けます。
- (3)当面発生するプラスチックごみについては100%回収し、持続可能な地域内資源循環を目指します。
- (4)市内イベントでは、リユース食器や再生可能な素材の食器を使用します。
- (5)プラスチック製レジ袋に代わる再生可能な素材の買い物袋の共同購入(他都市との連携含む)のしくみづくりを進めます。
- (6)市民や事業者の環境に配慮した取組みを積極的に支援し、世界最先端の『環境先進都市・亀岡』のブランド力向上を目指します。

- 3 先導的プロジェクト
- ①マイバック 100%めざそうプロジェクト
 - ②「プラごみゼロ」をお店と市民が美味しく実践するプロジェクト
 - ③いつでも、どこでも「亀岡のおいしい水」プロジェクト
 - ④プラごみゼロでまちのしごと応援プロジェクト
- ※現時点での各プロジェクトの企画内容（素案）は別添のとおりですが、この素案をベースに今後、協議・検討を進めます。

- 4 事業の進め方
- 平成31年度は、海洋プラスチック汚染問題への対応として、海岸漂着物発生抑制対策の観点から、以下の事業を皮切りに事業をスタートします。
- (1)レジ（プラスチック）袋有料化から禁止の条例化に向け、エコバックの持参率向上を目指したオリジナルマイバックの配布
 - (2)ペットボトルの削減と亀岡のおいしい水の発信の両面から、ボトル用給水器の公共施設への設置
 - (3)市主催の会議でのペットボトル飲料配布の廃止

- 5 ごみゼロの考え方
- 「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」を行い、プラスチック製のレジ袋を単純に紙袋に転換するだけでは、実際にはごみの減量につながらないことも懸念されます。そこで、マイバックなどの活用によりレジ袋などの使い捨てプラスチックごみの絶対量の減少を目指すとともに、排出ごみに含まれる資源化可能なもの（全体の30%～40%）については、宣言と同時に市民の意識の改革と取り組みやすい資源化システムの構築が必要不可欠となってきます。

平成30年3月に策定した「亀岡市ゼロエミッション計画」の基本方針に則り、①誰もがわかる分別情報の提供、②高齢者等の生活弱者のごみ出し支援③市民誰もが取り組みやすい資源化システムの構築④中間処理施設（民間）の活用による資源回収などの取り組みを、亀岡市循環型社会推進審議会とともに、より積極的に進めていく必要があります。

- 6 環境省の動き
- (1)削減目標等
- 【2030年まで】
- 使い捨てプラスチックの排出量を25%削減
 - プラスチック製包装容器のリサイクル・リユース率60%
 - バイオ素材の国内利用量を約200万トン
- 【2035年まで】
- 発電・発熱活用も含めて、全てのプラスチックごみを有効利用
- 【その他】
- 小売店などにレジ袋の有料化を義務付け

洗顔料などに含まれる微粒子のマイクロプラスチック削減を徹底
将来的に海洋へのプラスチック排出をゼロに

※2019年6月に大阪で開催されるG20首脳会合で大胆な目標設定で環境問題への積極姿勢をアピールする狙いがある。

※小売店がレジ袋代を客から徴収するほか、レジ袋に新税を課して環境対策に充てることなども想定される。

※10月19日 環境省が中央環境審議会小委員会にプラスチック削減戦略素案を提示、審議中（パブリックコメントの予定あり）

7 他自治体の宣言

(1) かながわプラスチックゼロ宣言【神奈川県】

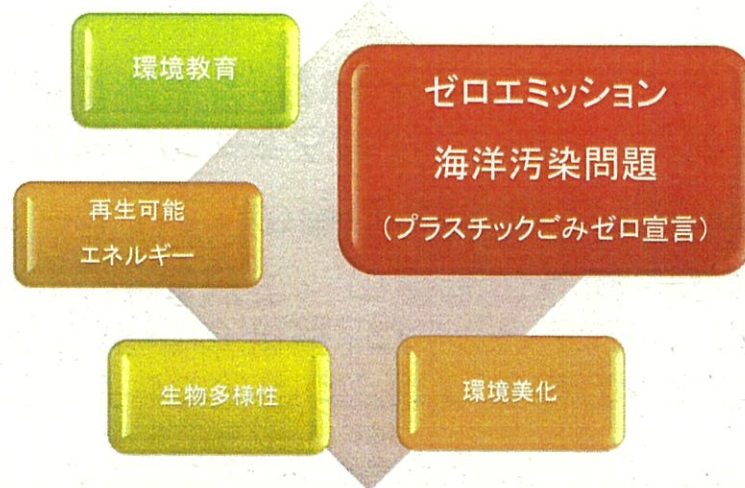
(2) かまくらプラスチックゼロ宣言【神奈川県鎌倉市】

※それぞれの内容は、別添のとおり

かめおかプラスチックごみゼロ宣言

(方針)

～世界最先端の『環境先進都市・亀岡』を目指して～



かめおかプラスチックごみゼロ宣言

深刻化する海洋プラスチック汚染は、魚や海鳥などの海の生態系にまで大きな影響を与え、地球規模の問題となっているだけではなく、ここ亀岡でも保津川のごみ問題は、地域経済への現実の脅威となっています。

この問題は、私たち一人ひとりの身近な問題として捉えていく必要があります。そのためにも、私たちにできる身近な取組みを国内外の他都市とも連携し、湧き上がるような大きな流れを巻き起こしていかなければ解決できるものではありません。

今、世界では、使い捨てプラスチックの削減に向けた動きが加速しています。亀岡市は、平成24年に内陸部の自治体で初めてとなる海ごみサミットを開催し「母なる川保津川」から海ごみをなくす取組みを発信してきました。こうした取組みをさら深化させ、SDGsの取組みとして、みなさんとともに2030年までに使い捨てプラスチックゼロのまちを目指します。そして、自然環境の保全と地域経済の活性化に一体的に取り組む『世界に誇れる環境先進都市』を実現します。

2018年12月 日 亀岡市長 桂川 孝裕

かめおかプラスチックごみゼロ宣言

- 市内の全ての店舗でのレジ袋有料化を皮切りにレジ袋禁止に踏み切り、マイバック持参率100%や、やむを得ない場合についても紙をはじめとした生分解かつ再生可能な素材の買い物袋の使用率100%を実現する取組みを進めます。
- 「保津川から下流へ、そして海にプラスチックごみを流さない。」世界規模の海洋汚染(マイクロプラスチック)問題に立ち上がる意識のつながりを呼び掛けます。
- 当面発生するプラスチックごみについては100%回収し、持続可能な地域内資源循環を目指します。
- 市内のイベントでは、リユース食器や紙をはじめとした生分解かつ再生可能な素材の食器を使用します。
- プラスチック製レジ袋に代わる紙をはじめとした生分解かつ再生可能な素材の買い物袋の共同購入(他都市との連携含む)のしくみづくりを進めます。
- 市民や事業者の環境に配慮した取組みを積極的に支援し、世界最先端の『環境先進都市・亀岡』のブランド力の向上を目指します。

かめおかプラスチックごみゼロ宣言

●先導的プロジェクト



- ①マイバック100%めざそうプロジェクト
- ②リバーフレンドリーレストランプロジェクト
～「プラごみゼロ」をお店と市民が美味しく実践するプロジェクト～
- ③いつでも、どこでも「亀岡のおいしい水」プロジェクト
- ④プラごみゼロでまちのしごと応援プロジェクト

目指す内容	先導的プロジェクト	H31年度予算
<p>市内の全ての店舗でのレジ袋有料化を皮切りにレジ袋禁止に踏み切り、マイバック持参率100%や、やむを得ない場合についても紙をはじめとした生分解かつ再生可能な素材の買い物袋の使用率100%を実現する取組みを進めます。</p>	<p>①マイバック100%めざそうプロジェクト</p>	<p>21,843千円 エコバック製作 関連費用</p>
<p>「保津川から下流へ、そして海にプラスチックごみを流さない。」世界規模の海洋汚染(マイクロプラスチック)問題に立ち上がる意識のつながりを呼び掛けます。</p>	<p>①マイバック100%めざそうプロジェクト ②「プラごみゼロ」をお店と市民が美味しく実践するプロジェクト ③いつでも、どこでも「亀岡のおいしい水」プロジェクト ※既存の『保津川の日』による事業展開</p>	
<p>当面発生するプラスチックごみについては100%回収し、持続可能な地域内資源循環を目指します。</p>	<p>※亀岡市ゼロエミッション計画に基づく事業展開</p>	
<p>市内のイベントでは、リユース食器や紙をはじめとした生分解かつ再生可能な素材の食器を使用します。</p>	<p>③いつでも、どこでも「亀岡のおいしい水」プロジェクト ※花火大会やマルシェ等のイベントから順次拡大</p>	<p>255千円 ウォーターサーバー リユース食器</p>
<p>プラスチック製レジ袋に代わる紙をはじめとした生分解かつ再生可能な素材の買い物袋の共同購入(他都市との連携含む)のしくみづくりを進めます。</p>	<p>①マイバック100%めざそうプロジェクト</p>	
<p>市民や事業者の環境に配慮した取組みを積極的に支援し、世界最先端の『環境先進都市・亀岡』のブランド力の向上を目指します。</p>	<p>②「プラごみゼロ」をお店と市民が美味しく実践するプロジェクト ④プラごみゼロでまちのしごと応援プロジェクト</p>	



① マイバック100%めざそう プロジェクト



国のレジ袋有料化義務付けの動きを注視。亀岡市は、レジ袋禁止を目標に設定

レジ(プラスチック)袋有料化→使用禁止

レジ袋を必要最小限に抑えながら

マイバック持参 / (紙バックへの転換)

→ **100%**

実施目標:2020年度 条例制定

- 2018年度 市内店舗、商店街との協議
使い捨てプラ袋使用禁止条例検討スタート
- 2019年度 使い捨てプラ袋有料化市内一斉スタート
- 2020年度 使い捨てプラ袋禁止条例制定(周知期間設定)
使い捨てプラ袋禁止条例施行

① マイバック100%めざそう プロジェクト

使い捨てプラスチック袋使用ストップの布石～使い捨てレジ(プラスチック)袋有料化

亀岡市が有料化を実施
することで周辺市町への
波及効果を見込める。

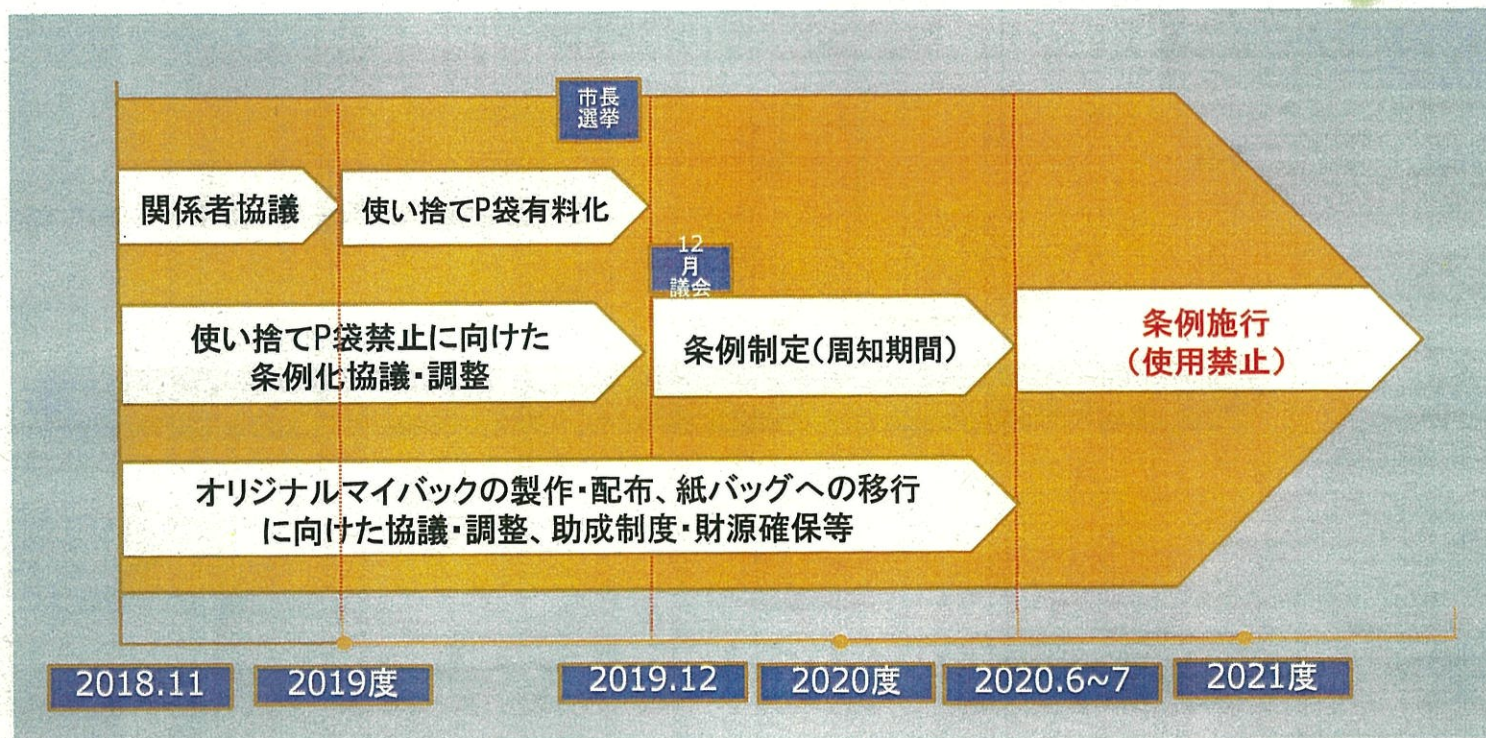
京都市有料化実施

【大阪府内】
豊中市・池田市・吹田市
高槻市・茨木市・箕面市
摂津市・島本町・豊能町
能勢町で有料化実施

周辺市町の状況



① マイバック100%めざそう プロジェクト



②リバーフレンドリーレストラン プロジェクト

協力店舗が一定数確保できれば、実施は可能。将来的に協力店舗を増やすことで、プラスチック削減の市民レベルでの意識の浸透が図れる。

アメリカのサーファーから始まった環境プロジェクトと亀岡保津川下りの船頭から始まった漂着ごみ発生抑制プロジェクトが連携し、世界につながる使い捨てプラスチック削減プロジェクトとして、この主旨に賛同し、認定基準を満たす市内飲食店を『river friendly restaurants』に認定し、スプーン等のマイカトラリーを持参する市民には特典を付与するなど、プラスチックごみ削減に向けた市民レベルの流れを創造します。このように身近な取り組みかつ持続可能な取り組みを市民・企業参加で展開し、亀岡から地球規模の環境問題の解決に取り組む亀岡ブランドを発信、『環境先進都市』を目指します。



OCEAN FRIENDLY
RESTAURANTS

②リバーフレンドリーレストラン プロジェクト



亀岡オリジナル基準の設定

『river friendly restaurants』認定基準(検討素案)

- ①. 発泡ポリスチレンフォームを一切使用せず、持ち帰り容器は再利用可能なものを使っている。
- ②. 皿、スプーン、フォーク等の食器類はすべて再利用可能なものを使っている。
- ③. レストラン全体で再利用活動が徹底されている。
- ④. プラスチック製のストロー、テイクアウト用リサイクルバック等は求められた場合のみ提供
- ⑤. ペットボトル入りのドリンク類は販売しない。
- ⑥. マイカトラリーを持参する市民には、特典を付与



②リバーフレンドリーレストラン プロジェクト



協力店舗(案)

○亀岡市移住・定住促進のための地域交流施設整備事業活用店舗



CAFE de MIMI 中矢田町岸ノ上32番地1



ガーデンモリス 畑野町千ヶ畑5番地68

ピザ庵えん 炎/縁 宮前町神前大道10-1

○京都亀岡牛 牛カツ商店街/亀岡駅前商店街振興組合

○亀岡市商店街連盟(モデルH商店街)/亀岡商業協同組合

○KIRIカフェ/caf  nouka

○森のステーションかめおか薬膳レストラン お家薬膳忘れな など



③いつでも、どこでも 「亀岡のおいしい水」プロジェクト



○ボトルディスペンサー式給水機を設置することで、亀岡のおいしい水道水をおしゃれに発信するとともに、『ペットボトルごみの削減』の流れを創造する。

☆市内の給水スポットとして、公共施設等への設置を検討
☆将来的には飲料メーカーと連携した次世代型マイボトル用自販機の実用化を目指す。

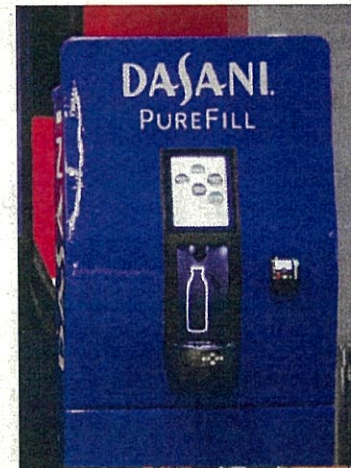


イメージ
Tokyowater
Drinking Station

○おしゃれなマイボトルのデザイン・製作を進めることで、『ペットボトルごみの削減』の流れを加速させる。

☆マイボトル持参の行動の習慣化

○市の主催する会議では、ペットボトル飲料は廃止し、リユース食器等を活用した水道水の提供に統一する。



イメージ
次世代型自販機
DASANI

③いつでも、どこでも 「亀岡のおいしい水」プロジェクト



○市内の店舗と連携した給水スポットづくり



☆ウォーターサーバーを設置されている市内店舗を亀岡のおいしい水の給水スポットとして活用させていただくことについて協議・調整を図り、いつでも、どこでもの拠点づくりを進める。

☆サイクリングやランニング中に立ち寄れるようにPRするなど、アウトドア(スポーツ観光)関連事業とのコラボを進める。

※店舗にとっても誘客につながる可能性も検討し互いのメリットを共有できるよう検討を進める。



④ プラごみゼロでまちのしごと 応援プロジェクト



○スプークの製作※素材は、亀岡素材を提供。おしゃれなデザインに。

試作：森川竹材店/三浦製材/松永弦楽器工房/藤村工務店

Yoshida wood studio/重利の山を守る会/長岡銘竹 との連携を検討

○脱プラスチックストローの製作  麦わら / 葦ストロー / 紙ストロー

亀岡ならではのオリジナルストロー、河川環境保全としての

ストーリー性も…。スプークとセットにした『脱プラセット』



麦わらストローの実証実験の動きあり

 (NPO法人 木野環境)



○プラごみの資源利用の促進(エフピコ)

○「mont-bellとの連携と協力に関する包括協定」とのコラボ

④ プラごみゼロでまちのしごと 応援プロジェクト



★ 亀岡野菜のブランド力の向上

- オーガニック食材へのこだわり
- 環境への徹底した配慮
紙製容器(商品パッケージ、テイクアウト容器)
量り売り(必要な分だけ)
- 食材の差別化(地元農家の支援)
LOCAL(地元産)、ORGANIC表示 など
- 新鮮、健康、美味しさを追求
- 農業のおしゃれ感の演出



➡ mont-bellとのコラボ、亀岡の既存店舗(たわわ朝霧/
朝市など)での特設ブース(アンテナショップ)の運用

環境／経済のマッチングによる 亀岡ならではの 持続可能な先導的プロジェクト

○豊かな自然環境を守る

○豊かな生態系を守る

○美味しい、本物の食材(オーガニック食材)を育む
(素材と隣り合わせの食農プロジェクトの展開)

観光によるにぎわいづくり

農業の発展、食農交流の進展、観光消費額の増加

☞環境と経済のマッチングにより、持続可能な
事業展開が可能となる。

○環境の実践活動が経済を牽引するプロジェクトへ
と発展する可能性を検証